

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

<b>自治体提示の地域課題名(注1)</b>	No.	<b>自治体提示の地域課題名</b>	<b>自治体名</b>
		市民・行政の双方のメリットを最大化するオープンデータの未来	水戸市
<b>チームがつけたアイデア名(公開)(注2)</b>	オープンデータの未来は「対話」で変わる～市営駐車場×食品ロス～		

(注1)地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2)アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

### 1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

<b>チーム名(公開)</b>	大原学園 COG チーム		
<b>チーム属性(公開)</b>	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 <span style="color: red;">ドロップダウン選択→</span>	3.混成	
<b>チームメンバー数(公開)</b>	7名(学生6名、教員1名)		
<b>代表者(公開)</b>	多田嘉夫		

**【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。**

#### ＜応募の際のファイル名と送付先＞

- 応募の際は、ファイル名を COG2024\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

#### ＜応募内容の公開＞

- アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名([メンバー一覧ページ](#)を参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
- 公開条件について:  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
- 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
- この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

#### ＜知的所有権等の取扱い＞

- 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
- 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 →

OK

#### ＜チームメンバー名簿:[メンバー一覧ページ](#)＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2.の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

#### (1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動(サービス)を行うのかを具体的に示してください。 将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。2 ページ以内でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

<解決したい課題のポイント>

○市民や民間企業等にとってオープンデータを身近なものとして、水戸市の活性化を図りたい。

○市営駐車場×食品ロス(規格外野菜)で集える場所にしたい。

コンパクトシティを目指す水戸市の在り方を、一見かけ離れているものを掛け合わせることで、あらたな視点で探してみたい。私たちが着眼したのは、市営駐車場の在り方と食品ロス(規格外野菜)だ。この二つに共通したキーワードは「もったいない」。この二つの「もったいない」を「防災」で結びつけることで、あらたなオープンデータの活用事例を示したい。

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

(参考)よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感(使う人の立場になってみる)が大切です。

<提案するアイデアの内容>

### ★空いている駐車場が「もったいない」(市営駐車場の現状)

水戸市には、現在、市営駐車場が9か所ある。大原学園水戸校に在籍する学生 266 人にアンケートを実施した結果、下記のグラフ(別表\_1)の通り水戸市の市営駐車場の利用率に偏りがある事が分かった。なかでも私たちは五軒町立体駐車場(令和5年4月オープン)に着目した。理由は、この駐車場は水戸市民会館の開館と合わせて整備されたものの、現状では利用率が低いからだ。五軒町駐車場は、283 台の駐車台数のうち、身障者用 12 台の駐車が可能。但し令和5年の利用台数(利用区画 283)は、17,717 台。近隣、五軒町地下駐車場(利用区画 217)利用台数の 73,509 台と比較すると利用率は約 1/4 程度に留まる。(水戸市議会「令和6年度版 市政概要」より)

★水戸市では、隣接する「MitoriO」(水戸芸術館、水戸市民会館及び京成百貨店を合わせた一体的な区域の愛称)は、将来的に水戸市の中心的な拠点となる事が期待されるので、利用率を促進したいと考えている。

### ★規格外野菜が「もったいない」(食品ロスの現状)

私たちは、規格外野菜のフードロスの実態を調査するために、水戸市内で農園を経営されている生産者(晴れ晴れファーム)を訪問した。「晴れ晴れファーム」によると、①売り物(規格)が約 50%、②売れないけど食べられる(規格外)が約 40%、③廃棄(食べられない)が約 10%の 3 パターンがあり、②をどうするかが「畑のフードロス」問題となっている。規格外野菜はトラクターで潰し、肥料として再利用をしている、という現状をご説明頂いた。

### ★駐車場と食品ロスとをつなぐキーワード「防災」

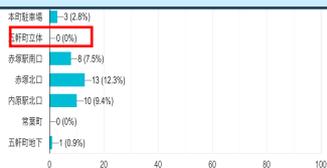
「晴れ晴れファーム」を訪れた際に、水戸市は農地と中心市街地と近接している強みを活かし、新鮮な野菜を迅速に供給できるポテンシャルを持っていて、この近さは災害時にも特に有効であり、農地で採れた野菜を、リヤカーやドローン、さらには街中から畑までのバケツリレーといった手法でスムーズに届けられることができるのでは、というお話を聞いた。

### ★駐車場×食品ロス(規格外野菜)でマルシェを開催

このマルシェでは、農家の方々の「食べられる規格外野菜を無駄にせず、多くの市民に届けたい」という思いを共有しながら、災害時の避難拠点としての役割も伝えることを目指す。こうした取り組みにより、駐車場の利便性を高めるだけでなく、地域の防災意識や食材活用への理解促進にも繋げていきたいと考えている。

★そもそも規格外とは、、、流通の為に決まったものであり、新鮮さやおいしさとは関係なく決められている。

→地元生産者の意見として本当は野菜として食べてもらいたいという気持ちがある。



別表\_1 大原学園学生アンケート



「晴れ晴れファーム」西村智訓氏



五軒町立体駐車場(水戸市 HP より)

## ★When

2025年8月31日に五軒町立体駐車場(6屋上駐車場)で開催

## 2. アイデアの説明（公開）

## (3) アイデア実現までの流れ（公開）

この日付にした理由…8月31日は「**野菜の日**」である。農家の方は春夏を中心に栽培しているため、8月下旬には規格外野菜が多く出る時期でもある。このような野菜を無駄にすることなく市民の皆様へ提供しフードロス削減を目指したい。また、翌日(9月1日)の「**防災の日**」ともマッチさせ、防災意識を高める場としても活用していきたいから。

### ★Who

**学生(大原) & 地元農家(『水戸の農家たち』ほか) & 地元商店街・消防団**

### ★How

#### (1) ファーマーズ・マルシェ・生産者・地元商店会と市民の「対話」の場づくり

- ① 規格外野菜の販売・配布
- ② 地元野菜の試食体験会、夏野菜一杯のパーベキュー大会
- ③ 地元商店会による出店企画

#### (2) 防災マルシェ

##### ① 炊き出し体験(五軒町立体駐車場)

ウォークラリー終了後には、夏野菜(規格外野菜含む)を使ったカレー、豚汁などを提供する。

##### ② 防災映像鑑賞

災害時の備えや避難行動を学べる映像を上映する。(※五軒町地下駐車場)

※五軒町地下駐車場は、「茨城県避難施設」(爆風等からの直接被害を軽減する緊急一時避難施設)

##### ③ 防災ウォークラリー

専用リュックを持って、マップとスマホを使いウォークラリーに挑戦！(マップは紙媒体でも配布)。各スポットで防災に関するクイズを解き、避難に必要なグッズをリュックに入れる実践的な体験をしながら、避難経路の確認する！

### ◎ 駐車場を活用した規格外野菜マルシェ × SDG



売れないけど食べられる規格外野菜を市民の方に提供することで食品ロス削減に繋がり、地球温暖化抑制に貢献できる！

## (2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由(なぜ)について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由(なぜ)を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

<参考: 以下のように理由を書いていきます>

※根拠: このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

### 1. オープンデータの現状

水戸市には 600 を超えるオープンデータが公開されているが、活用事例の調査は行われておらず、データが有効に活用されているとは言い難い状況である。昨年度、大原学園 COG チームが法律行政科学生 185 名に調査したところ、オープンデータの存在を知っている学生は、わずか 6 名（全体の 3.2%）であった。（大原学園学生アンケート 2023）

オープンデータは、2022 年度より高校で必修となった「情報 I」でも、「情報システムが提供するサービス」の中で触れられており、全国の高校でもその実践例の報告が上がっているが、大原学園水戸校在籍学生 266 名に「高校の授業（「情報 I」等）でオープンデータについて学んだことがあるか」問うたところ、97.4%の学生が「いいえ」と回答した。（大原学園学生アンケート 2024）今回の大原学園の調査では認知度が低く、高校で必修科目としているわりにはあまり知られていないと言う事がわかった。今回、私たちが初めてオープンデータに触れて感じたことは、①データが更新されておらず古い状態のままのものが多く、②欲しい情報がどこに分類されているのか分かりにくいこと等が挙げられる。オープンデータは、営利目的、非営利目的を問わず二次利用可能なデータを対象とするが、基盤となるデータが更新されず放置されれば利用価値は低下する。オープンデータは、市民の共有財産であるので、まずは活用できる環境の整備が望ましい。こうした取り組みに加え、活用事例の調査、発信も重要な課題である。

### 2. 市営駐車場の在り方とは？

私たちは、具体的なオープンデータの活用実用例としてオープンデータライブラリー内の「市営駐車場の概要」に着眼し、多くの市民に駐車場の利用を促すデータとして活用できないか考えた。水戸市の中心市街地には、多数の民間駐車場が集積し、駐車場が飽和状態にあることを念頭に駐車場の「他目的利用」を検討した。実際、民間の駐車場ではこうした実例がある。（写真 1）2024 年 11 月 26 日、所管課の水戸市商工課を訪問し、市営駐車場の他目的利用の活用事例について伺ったところ、こうした実例はないとのことであった。駐車以外の利用は条例上、行政財産の目的外使用にあたりハードルが高いことが分かった。

一方、市内に 9 か所ある市営駐車場の利用状況には差があり、令和 5 年 4 月にオープンした五軒町立体駐車場は、新市民会館の開館に合わせて建設されたものの、思うように利用率が伸びていないことが分かった。しかし、ここは「改正バリアフリー法」（令和 5 年 5 月成立）を受けて市営駐車場の中で最も広い身障者用駐車スペースが確保されるなど他の市営駐車場以上の付加価値性が備わっている。（写真 2）私たちは、条例等により縛りを持つ市営駐車場の活用の難しさを理解した。その一方、「市営」という公益性の観点から駐車場の在り方を検討することの重要性をあらたに認識した。

この問題意識が、災害時など有事の際の駐車場活用の発想に繋がっていった。

### 3. 食品ロス（規格外野菜）

私たちが食品ロスに興味を持ったきっかけは、アルバイト先での賞味期限等での理由から発生する食品ロスがもったいないと感じたからだ。

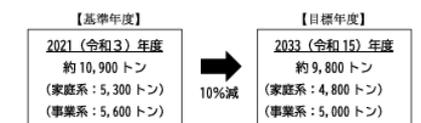
私たちは、水戸市の「第 7 次総合計画」や「水戸市食品ロス削減推進計画」（別表 2）を通じて現状や取り組みを把握し、他県の事例も調査した。その中で、大阪府が地球の日（4月22日）に開催している



写真 1. JR 水戸三の丸駐車場



写真 2. 五軒町立体駐車場（身障者用駐車スペース）



<市民一人当たり換算の食品ロス発生量>



【目標指標】

2033（令和 15）年度までに 2021（令和 3）年度比で食品ロス発生量を 10 パーセント以上削減

## 2. アイデアの説明（公開）

## (3) アイデア実現までの流れ（公開）

「アースリズムマーケット」の規格外野菜の詰め放題イベントに注目した。

この取り組みを参考に、私たちが規格外野菜に着目した。

しかし、水戸市に確認したところオープンデータライブラリーには、規格外野菜等の農作物の廃棄量に関するデータがないことが判明した。オープンデータには、存在しないデータではあるが、食品ロスの実態を理解する上では重要である。農林水産省の「作物統計調査」(令和5年野菜[41品目]の作付け面積, 10a 当たり収穫, 収穫量, 及び出荷量[全国]) (別表\_3)によると, 収穫量と出荷量との差, すなわち市場に出回らない農作物は, 463,000t であった。これは全収穫量の 17%に当たる。(別表\_4) 国のデータをもとに、生産量と出荷量の差から規格外野菜の廃棄量を推定することはできるが、それだけでは実際の流通状況や利用方法を把握することは困難だった。そのため、実際に地元の生産者である「晴れ晴れファーム」を訪問し、規格外野菜の現状や課題について直接お話を伺った。この現地調査を通じて、データだけでは見えない実態, すなわち市場に出回らない野菜の行方は, 生産者, 行政共に調査されておらず, 把握されていないということが理解できた。

別表\_2 「水戸市食品ロス削減推進計画」よ

品目	作付面積	収穫量	出荷量
	ha	t	t
秋冬野菜	84,300	2,759,000	2,296,000

別表\_3 「作物統計調査(令和5年度)」(農林水産省)



別表\_4 流通に出回らない農作物の割合  
「作物統計調査(令和5年度)」  
(農林水産省)

また、売れないけど食べられる規格外野菜が収穫量の約30~40%ほどあり、特に栄養価の高いブロッコリーでは、規格外とされるひと回り大きなものが実は甘くて美味しいという特徴があることを知った。規格外というのは物流基準で決まるものであり、味や品質には全く問題がなく、こうした野菜を通じて、生産者(晴れ晴れファーム)の思いとして「もっと多くの人に野菜を食べてほしい」「野菜を料理する人を増やしたい」という願いを市民に届けたいと考えているとおっしゃっていた。

### 4. 食品ロス(規格外野菜) ✖ 市営駐車場 = 「ファーマーズマルシェ」「防災マルシェ」!!!!

駐車場などを活用し、規格外野菜の販売や食品ロス削減をテーマとした「ファーマーズマルシェ」を開催することで、地域の食文化を活性化させることができる。同時に、「防災マルシェ」を開催し、駐車場でも防災を動機づける災害時の避難拠点として市民が認知し、有事の際に安心して集える場所としての役割も果たせるようにしたいと考える。日常(ファーマーズマルシェ)と非日常(防災マルシェ)の両方に対応できる、地域に根ざした仕組みを構築していきたい。

## (3) アイデア実現までの流れ（公開）

## 2. アイデアの説明（公開）

## (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

### 1 実現する主体

★**学生(大原)&地元農家(「水戸の農家たち」ほか)&地元商店街・消防団**が主体となって運営。

★開催会場を**市営駐車場(五軒町立体駐車場)**及び**MitoriO 周辺地域**とする。  
将来的に水戸市の中心的な拠点となる事が期待されるので、一体的な活性化を図りたい。

### 2 実現に必要な資源(ヒト,モノ,カネ)

- (1) **ヒト**: 大原学園関係者 7 名(学生・教員)が中心となり企画。  
水戸市, 地元農業団体・商店街・消防団, 農家の方々へ協力を要請。実行委員会を立ち上げる。
- (2) **モノ**: 「ファーマーズマルシェ」、「防災マルシェ」(「防災ウォークラリー」や「炊き出し体験」「防災映像」)で使用する道具, 食材が必要。また、防災ウォークラリーで使用するリュックの中身は避難時に必要なもの(水, 非常食, 懐中電灯, ラジオなど)が, 男性 15kg, 女性 10kg が必要であるため代替品で重さを感じてもらう。
- (3) **カネ**: 必要な経費はイベントを行う上での道具や食材費。  
想定予算 6~7万円(協賛・寄付を募る, 企業協賛など)



写真\_4 MitoriO(水戸市民会館・水戸芸術館・京成百貨店)



### 3 実現に至る時間軸を含むプロセス

#### (1) **もったいないマルシェ(規格外野菜×駐車場)企画~これまでのプロセス~**

- 11月8日(金) **水戸市デジタルイノベーション課訪問①**  
オープンデータ活用の切り口について意見交換  
➡企画案(市営駐車場の活用×食品ロス削減)
- 11月20日(水) **水戸市デジタルイノベーション課訪問②**  
➡オープンデータについての学習会(現状と課題)
- 11月26日(火) **水戸市商工課訪問(市営駐車場の活用方法について質問)**  
➡オープンデータ(市営駐車場の概要)更新を依頼  
即対応, データ更新して頂く(「対話」の成果!)
- 11月27日(水) **MitoriO 周辺(五軒町立体駐車場)視察**
- 11月29日(金) **学生アンケート実施(266人対象)**  
➡①オープンデータ認知度(高校「情報I」での学習含め), ②市営駐車場の利用状況, ③食品ロス
- 12月1日(日) **全国ネギサミット(水戸市民会館)視察**  
➡「晴れ晴れファーム」西村氏と出会う
- 12月5日(木) **「晴れ晴れファーム」西村さんを訪問**  
➡規格外野菜の現状について伺う。  
・規格外野菜は, データ化されていない。  
・農家の課題は「畑のフードロス」  
・様々な取り組みを通じた事例作りに挑戦  
(データに見えないことを「対話」で学んだ。)



「晴れ晴れファーム」訪問



★行政, 地元生産者との「対話」を通して活動方針が定まる

- ・可視化（データ化）されていない規格外野菜の廃棄について問題意識を持って取り組む。
- ・市営駐車場の災害時活用（地元農家との連携）の在り方を考える。
- ・上記内容とオープンデータとの関係性を整理していきたい。

## (2) 今後の予定(DO):2025年2月～8月

## ★行政機関への相談

- ・水戸市商工課⇒五軒町立体駐車場（屋上駐車場）、五軒町地下駐車場のイベント会場利用について  
※屋上駐車を利用することで、駐車場を知ってもらう「駐車場の魅力向上」のためのイベントでもある。
- ・水戸市防災・危機管理課⇒防災イベントの運営について
- ・文化交流課⇒水戸芸術館でのイベント開催方法

## ★仲間を増やす

- ・防災マルシェは、MitoriO 地区周辺の住民（泉町、五軒町）の方を対象に実施（災害時を想定）
- ・地元生産者、商店会、町内会、消防団に企画の意図を説明
- ・実行委員会を組織（8/31 の実施に向けて準備開始）

## ★イベント企画の準備(3つの柱)

- ①「防災ウォークラリー」・・・災害時を想定した動線を念頭に作成（東日本大震災時の状況も加味）  
運営主体・・・町内会、商店会、消防団など地域の特性、歴史を知る方に協力を仰ぐ
- ②防災動画作成・・・地域の高校（水戸商業高校など）、大学、専門学校の学生・生徒にも募集
- ③炊き出し体験（五軒町立体駐車場）、ファーマーズマルシェ  
運営主体・・・地元農家との連携、炊き出しメニュー、会場までの移手段、実施方法を検討

## (3) 実施後の検証(SEE)

- ★「記録を残す」⇒実施事例を水戸市のホームページ上で紹介
- ★「仲間を増やす」⇒COGメンバー、母校（高校）に報告。仲間を募る（教員、生徒）

## 4 「市民・行政の双方のメリットを最大化するオープンデータの未来」とは？

## ★オープンデータの課題は？

- ・市民にとって分かりにくい、更新がされていない。
- ・二次利用した際に支障が生じる⇒データへの信頼が下がってしまう。
- ・その原因は、①行政内でもその必要性、重要性への認識が共有されていない（データの更新の遅れ）、②市民側の関心の低さ（そもそもその存在が認知されていない）

## ★課題克服の鍵は「対話」

- ・「行政は万能ではない」、更新されていないデータがあれば、担当に相談すればよい  
⇒今回、COG チームは、商工課所管の「市営駐車場の概要」から、「五軒町立体駐車場」情報が抜けていたことを発見。担当者に相談したところ、すぐにデータを更新して頂き、対話の大切さを確認した。
- ・使いやすいように「提案」すればよい（一緒に作るオープンデータ）  
⇒今回、COG チームは、規格外野菜の行方を追ったが、行政データに存在しないことが判明。行政にないなら民間事業者が保有しているデータや国や県の関連データをアップしても良いのではないか。
- ・実際にデータを使ってみる！  
・COG チームは、「市営駐車場の概要」データを使って Google マイマップで地点登録をしてみた。そこには、駐車場情報、駐車場の写真を載せた。オープンデータの内容が充実すればさらに使いやすいさは増すだろう。



## ★「対話」によってオープンデータの未来は変わる!!

今回、私たちは、データから対話を始め、対話によりさらに見えない課題を明らかにしてきた。無機質なデータが「対話」により、さらなる価値を生み出す。そこに地域課題解決のヒントがある。